

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成9年1月1日
第15号

立教開宗750年を 迎えるにあたって



本門佛立宗務総長
小山 日誠

リレー提言⑤

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

新年おめでとうございます。

日蓮聖人門下連合会各位におかれましては、つがなぐ平成九年の新春をお迎えになられたこと心からお慶び申し上げます。高祖立教開宗七百五十年に向け各宗各派それぞれに報恩記念事業を着々と進めておられることを御同慶に存じます。

さてこのたび「門連だより」編集長様より、本門佛立宗の報恩ご奉公体制について述べよ、と仰せつかりました。一昨年の阪神淡路大震災、昨年の第二十一世講有御牧日動上人の御遷化、それにつづく第二十二世講有井上日慶上人の晋位晋山式とあ

わただしく経過し、正直に申し上げていまだご報告に値する確たる報恩体制は立っておりませんので、現状をお伝えしてその責を果したいと存じております。

当宗では毎年元旦に講有上人から「年頭のことば」が発せられ、それによって宗門の御奉公方針が固まります。

昨年平成八年の年頭のことばでは、第二十一世講有日動上人から平成十四年にお迎えする立教開宗七百五十年報恩のため七万五千人の教化を命令いただきました。これを私たちは第二十一世講有のご遺言、さらには高祖日蓮大士の至上命令と受けとめ、第二十二世講有日慶上人を中心とする御奉公に取り組み、今年四月には全国寺院の住職・事務局長を招集して決起大会を開催運びとなりました。さて、昨今の宗内寺院の状況を見



本山宥清寺御会式風景

田中香浦先生を偲ぶ

顧問 古瀬日宇

門下各派指導者の努力により門下連合会が結成されるや香浦先生は率先連合第一陣として三日間の祖廟輪番奉仕を奉行了。師の門連にかけられる期待は非常に大きかった。かつて田中智学先生は祖廟中心の門下融合を主張し、門下が分立し身延を謗法の山と貶すのあまりに偏狭一途で否定するのはあまりに偏狭一途である。祖廟を全門下に開放し異体同心を廟下に誓う事が第一の大事なことである。これは信徒の高齢化とともに大きな課題となるでしょう。従来当宗では信徒を世帯数で数え、〇〇戸という風に云ってまいりました。しかしこれからは、信仰は「個人」の時代になると考えます。宗門は、第二十一世講有が「七万五千戸」ではなく「七万五千人」と発願されたお意をいただき、「一人一個（いちにんひとり）教化運動」を提唱しました。

その一環として、家の中に奉安する従来の御本尊に加えて、寮生活の若者や、施設暮らしの高齢者にもご安置できるような個人教化向けの「新御本尊」がこのほど制定されました。当宗ではこの新御本尊に示されるように「戸から個へ」の時代に対応すべく、さらなる努力を重ねなければ

ならないと考えております。立教開宗七百五十年を目指してのもう一つの柱に「宗門改革」がありま

す。これは二十一世紀の宗門発展のために、宗内の現状を直視し刷新するための改良運動で、平成四年に「宗門改革特別委員会」が設置されました。以来、各部門ごとにプロジェクトチームが編成され検討を重ねて、いよいよ実行に移す段階となりました。

相当の大手筈が必要となると思われませんが、「改良」を旗印とされた我が開導日蓮聖人のみ教えのもと断乎実行させていただきます。宗門として現在進行中の事業としては、平成七年暮に起工式が行われた滋賀県今津町の「佛立センター」（仮称）工事があります。昨年末には第一期の開発造成工事が完成し、いまは建造物の構想を固めるべく衆知を集めております。この事業は高祖日蓮大士七百回御遠諱にはじまり、紆余曲折を経ながらようやく着工にまで漕ぎつけたも

お願い
「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

從地涌出

十五に十六、十七、妙法蓮華經從地涌出品第十五、「御義口伝」云く此の品は述門流通の後、本門開闢の序分なり、「云々」。▼本紙も第十五号を数えて、述を發し本を顯わす時期が到来した。世間に於ては隠蔽し続けて来た事は全て露見して真相究明の活動が各方面に展開され、立替え、立て直しが急務とされている。▼日蓮聖人門下の組織活動「祖廟を中心」とともに「妙法を第一」に立替え、立て直しの事も大事。在家の本来初代の墓所を各分家の要として墓を第一とする事から先祖崇拜は親子兄弟姉妹等の「縦の順位と横の区別」をマモリ真釣りありうことが親族の絆を保ち異体同心の調和のココロ「本心」に還元する道である。▼涅槃經に法の四依「依法不依人、依義不依語、依智不依識、依了義經不依不了義經」云々。佛道は師弟法類の「縦の順位と横の区別」が大事である。「妙法を第一」とする佛道本来の弟子の道に還る事が日蓮聖人門下ホウオンの直道である。▼日蓮聖人滅後門下は地涌菩薩として広宣流布の為、種々の本尊・化儀を展開した教義を開（魔）会して一同に座する時は娑婆世界は差別世界であるとの理を受持し「順位と区別」をマモリ「妙法を第一」とした座配で真釣りありうことが本門開闢の如説修行である。自由と平等は本来無いと覚悟し「善悪不二・邪正一如」の妙法を世間に顯現する事が法華經の意とすれば本会の目的と事業達成には僧俗（相統）の人材交流と派遣が無住の道場を開（魔）く事……道理。▼「法華經を讀すと雖も還って法華の心を死す」順逆次第して意得可きなり。（意）

日蓮聖人門下連合会の輝やく業績を回顧して



大橋邦正
常任理事

日蓮聖人門下連合会は結成以来本年三十八年目を迎える。これまで門下連合につらなる各門下各派が、異体同心の聖訓を体し、聖祖讃仰の道念のもと、広宣流布のため聖なる共同事業にとりくみ、内には祖廟中心、外に立正安国の願業を、いかにして具現化するか、研鑽と信行策励に精進した業績は、かえりみてその意義じつにふかく重い。

平成九年の年初にあたり、門下連合会が培ってきた信力とその実績を思い起し、誠意をもって尽力された先賢各聖の「法券を偲ぶ」とともに、今や日蓮聖人立教開宗七〇〇年の記念すべき年をめざして、さらなる連帯意識のもと、捲土重来の活動展開を切に願ってやまない。

昭和三十四年は、日蓮聖人第一国諫たる「立正安国論」上書より算えて七百年という、聖祖ご門下にとつて意義まことに重要な記念すべき年であった。この年こそ「立正安国」の大義を宣揚する千載一遇の好機であった。この時を重視して、聖祖ご門下教団がここに大同団結し、「立正安国論献諫」の意義を、ひろく世に顕彰する大会を開催し、以て御報恩に資すべきであると、ご門下各派に呼びかけたのは国柱会田中香浦先生であった。

日蓮聖人門下連合会の誕生

かくして門下連合会としてとりくむ初の共同事業が、日蓮聖人伊豆法難七百年記念の報恩事業であった。同年五月十二日の御聖日をとし、伊東市西小学校講堂において、記念慶讃大法要をはじめ、記念講演会、芸術伝道聖史劇上演など多彩にくりひろげ、御報恩の万々に擬し奉った。

爾来年ごとに充実成長し、各派相互に連携を密にしつつ、さらに強固な組織へと進展した。昭和三十八年時運のおもむくところ、門下連合会は規約を大幅に改正し新たな組織体制を固めるに至った。改正の主なるものは、各派教団から宗務総長を含む三名の代表を選出して各宗務総長を常任理事とし他を理事とする実意欲的な理事制を敷いたことである。

新組織による初の行事は祖廟中心の精神的実践であった。ことに身延祖廟は、規約にも明示のとおり全日蓮門下のひとしく崇敬護持すべき祖廟であつて、門下連合の一大巨環の組織の要である。この意義においてこの年十一月二十八日、門下連合各派管長、宗務総長(常任理事)、理事の各聖が祖廟に参集して、「日蓮聖人

門下連合会結成誓願奉告式」を厳修、誓いを新たにしたのである。

伊豆法難顕彰の一大法会については、昭和四十一年、創価学会をはじめとする迷信邪教の横行にたいし、破邪顕正、正法興隆を志して、この年五月二十一日、東京日比谷公会堂において「日蓮聖人門下連合大会講演会」を開催。講演は各派から三師が出講し、堂々の論陣を張って憂宗護法の念に燃ゆる連合同志二千数百が結集する壮挙であった。

昭和四十五年は、日蓮聖人龍口法難七百年の記念すべき年にあたる。聖祖御一代の御化導のなかのこの発蹟本重要な意義をふかく憶い、世にひろく御法難の意義を顕彰すべく「日蓮聖人龍口法難七百年記念大会」を、九月十三日、東京九段会館において開催。講演は日蓮宗片山日幹師、本門流福島泰信師、佛立宗中野日裕師が龍口法難の意義を弁じ、国柱会は国柱会芸術部出演による聖史劇「土の牢」を上演、いずれも満場を魅了した。

昭和四十六年が日蓮聖人降誕七百年に当る。この佳年を慶讃して芸術伝道をもつてひろく大衆に、日蓮聖人を正しく讃仰せしめる、「聖伝劇・日蓮聖人」の明治座公演を企画し、昭和四十四年から二カ年かけて脚本、俳優、宣伝、動員計画など協議を重ね、脚本・小幡欣治、主演・松本幸四郎、高麗屋一門により、聖祖御生誕記念の年の四月、一カ月公演として興業。門下連合在京同志は三万余の観劇動員をはかり、大衆をして世界恐慌下の利益を与える弘通の成果を挙げた。

規約を改正して新発足したところ、「祖廟中心」の精神を如実に体現すべく、門下各派による祖廟輪番給仕の実現について協議がなされ、昭和三十九年五月十五日、各派代表は身延に参集、身延山久遠寺における輪番奉仕行軌の視察を行った。

日蓮宗、身延山当局においては、門下連合会の輪番給仕奉行の要望に応えて、宗制の一部を改正して、ご門下各派が各派独自の法儀によって、輪番給仕に専心する門をひらいた。連合会はその趣旨にそつて、連合会を代表する資格のもとに、各派は公式代表をもつて祖廟輪番奉仕を奉行しようとして合意を行った。この趣旨にもついで翌四十年春、国柱会はその先陣を承つて門下連合会代表の名のもとに、国柱会独自の法儀により誠意なる輪番給仕を奉行し、爾来毎年欠かさず実行して今日に至っている。

折から祖廟に関して「御真骨の祖廟奉遷」問題が、門下各派からほうはいと起つて起つてきた。これは門下連合の充実強化の姿と平行して、祖廟中心を結束の要とする、異体同心の教訓にそつて奉らんとする全門下の如法な願望といえるのである。

昭和五十三年に、「御真骨の奉遷ならびに祖廟護持に関する決議」をし、御真骨奉遷のすみやかなる実現を要望したのである。本問題については、各派各聖により真剣に論議されて今日におよんでいる。

昭和五十六年、日蓮聖人七百遠忌御正当年にあたり、実行された御報恩の聖業は、第一に、聖祖御一代の御化導を演劇によってひろく世に顕彰するため、全国に五十四年、五十六年と二度にわたつて公演した前進座による「日蓮聖人劇」。

第二に、聖祖の御真蹟をはじめ各派格護の重宝類をあつめ、人々を正法に結縁させるべく、東京、大阪、小倉で開催した「日蓮聖人展」。

第三は、翌五十七年三月に、門下連合会加盟教団の次代をになう青年達の結束をめざす「青年の船」の船出であった。

聖祖七百遠忌の翌七百年に門下の若人たちは、太平洋洋に向けて新しい旅立ちに出発した。それを「七〇一年の旅立ち」とし、「めざせ立正安国」を掲げ、「青春さまさま信仰(こころ)は一つ」と誓い合った。かくて「青年の船」は多大の成果を収めて諸縁吉祥のうちに成満をみた。

第四は、昭和五十七年四月、報恩事業の掉尾を飾る、「オラトリオ日蓮聖人の発表演奏会」であった。オラトリオ日蓮聖人の創作は、日本仏教界において初の偉業である。作詞西川満氏、作曲黛敏郎氏という当代最高峰の人をえて、五年の歳月をかけて制作された。東京新宿文化センターにおいて開催された発表演奏会は、満場の聴衆を感動の坩堝につつまこんだ。まさに闊浮一聖たる聖祖を讃仰し、御報恩の万々に資するにふさわしい記念の聖業であった。

この七百遠忌報恩記念事業は、じつに十年の歳月をかけて企画を練り、準備と計画に万全を期し、ご門下各派が、異体同心の聖訓を体し熱誠もつて聖業を完遂したが、ご門下連帯のゆえにこそ成しえた偉業であった。

昭和四十九年、これまで日蓮聖人門下連合会が東京に本部を置き、門下各派および教団の連絡、協力、団結を目標に、共同事業など活動を展開してきたが、一方京都には、つとに十六本山を基盤とする京都日蓮聖人門下連合会が存在していた。そこ

で来るべき聖祖七百遠忌を期して、東西両門連はあつた大同団結する気運を迎えたのである。

この年の十一月京都日蓮宗大本山妙満寺において、東西両門連合同の会議がもたれた。主題は昭和五十六年にお迎える日蓮聖人七百遠忌の報恩事業をいかに展開するか、が真剣に論ぜられ、ご門下異体同心

「立教開宗750年」

護法団参のご用命は
日本旅行へお申しつけ下さい

日本旅行 運輸大臣登録旅行業第2号
お問い合わせは
法人営業本部組織二部
☎03(3592)3951

恭賀新春

平成九年丁丑

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管 長	田中 日淳	慶法伝道部長	小倉 光雄
宗務総長	永井 祥文	立憲宗務部長	新井 貫厚
宗務副総長	岩間 湛正	現代宗務部長	石川 浩徳
総合企画部長	渡辺 清明	国際開教部長	上田 尚正
庶務部長	栗原 正震	人権対策部長	大乗 文延
財務部長	星 光諭	参 与	堀江 宏正
教務部長	齋藤 邦昭	参 与	浅井 玄裕
		日蓮新聞社社長	三坂 恵人

〒146 東京都大田区池上1-13-11 五
電話 〇三(三三)七五(一)七八一
FAX 〇三(三三)七五(一)七八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	和田 日淳
宗務総長	川口 日唱
宗務副総長	三浦 成雄
教学部長	原 井 慈 鳳
財務部長	原 井 晋 城
庶務部長	桃 井 晋 城
教化部長	坂 卷 顕 導

〒170 東京都豊島区北大塚1-12-6 四
電話 〇三(三三)九一(〇)四七五
FAX 〇三(三三)九一(八)七九九

顕本法華宗宗務院

管 長	吉永 日晴	社会部長	川崎 英宗
宗務総長	山田 信正	庶務部長	島田 幸晴
宗務次長	藤崎 広学	主 事	湯原 純勇
財務部長	田島 敏義	阿曾 久成	
布教部長	早川 義正	津村 乗信	
教務部長	小島 顕明	小松 正学	

〒606 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)七一一
FAX 〇七五(七九)七二六

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	竹 嶋 日香
宗務総長	牧 野 琢成
宗務副総長	土 屋 善 敬
教学部長	都 築 哲 信
教化部長	金 原 戒 雄
財務部長	江 坂 隆 俊
宗務参事	竹 内 敬 覚

〒170 東京都豊島区巢鴨五-13-5 六
電話 〇三(三三)九一(八)七二九
FAX 〇三(三三)五七(六)〇二一

本門佛立宗宗務本庁

管 長	井 上 日 慶
宗務総長	梶 本 日 裔
宗務副総長	小 山 日 誠
宗務副総長	笹 田 日 昌
宗務副総長	佐 藤 政 司
宗務本庁役員一同	

〒602 京都市上京区御通一条上ル東堅町一〇番地
電話 〇七五(四六)一一一六
FAX 〇七五(四六)五五九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉 儀 日 有
宗務総長	佐 藤 智 明
宗務副総長	原 眞 昭
教学部長	原 眞 昭
財務部長	柳 下 義 眞
法務部長	高 橋 寛 承

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七)三三九
FAX 〇七五(七七)五九一

法華宗(真門流)宗務院

管 長	真 枝 日 世
宗務総長	上 田 浩 岳
宗務副総長	堀 内 邦 雅
教学部長	辻 本 寛 孝
教化部長	蓑 輪 溪 谷
財務部長	田 中 諦 常

〒602 京都市上京区智恵院通り五上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四)五七六
FAX 〇七五(四四)五六六

本門法華宗宗務院

管 長	吉 村 日 義
宗務総長	高 辺 信 幸
宗務副総長	信 隆 允 忠
財務部長	増 田 隆 雄
宗務副総長	藤 井 宏 長
庶務部長	山 下 通 雄
教務部長	音 羽 隆 全
門連兼任理事	持 地 光 学

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五)三二七

宗教法人 国柱会

会 長	田 中 暉 丘
理 事 長	三 田 道 弘
副 理 事 長	入 江 克 郎
門連兼任理事	大 橋 邦 正
本部事務局長	石 見 良 教

〒132 東京都江戸川区一之江六一一九一八
電話 〇三(三三)五六(七)一一一
FAX 〇三(三三)五六(六)九九八

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	嘉 儀 日 有
副 会 長	金 山 日 龍
理 事 長	佐 藤 智 明
副 理 事 長	杉 若 恵 隆

京門連事務局
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八要法寺内
電話 〇七五(七七)三三九
FAX 〇七五(七七)五九一

日本山妙法寺

首 座	上 野 行 量
長 老	塙 行 幸
長 老	石 山 善 邦
日印サレ水ツヤ交友 会会誌発行編集人	今 井 行 順
天鼓出版発行編集人 日本山妙法寺事務局	松 谷 被 鏡

〒150 東京都渋谷区神泉八-17
電話 〇六(二六)三三二六



恭賀新春

平成九年丁丑

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六六(二)〇一〇一 FAX 〇五五六六(二)〇九四</p> <p>法主 岩間 日勇 総務 藤井 教雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上二-1-11 電話 〇三三七五(二)三三三二 FAX 〇三三七五(二)三三三〇</p> <p>首田 中日 淳</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>首 吉永 日晴 総務 中村 通義 執事 津村 乘信 執事 安東 靖弘 執事 山本 晃道 執事 小松 正学</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一-1-1 電話 〇二五六(三)〇〇〇八</p> <p>首 竹嶋 日香 執事 真保 行宣 執事 西山 英仁 執事 平井 良光 執事 鈴木 木顕 正 執事 栗田 孝之</p>
<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>首 真枝 日世 執事 岩崎 峻暉 執事 笹木 研秀</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七</p> <p>首 吉村 日義 執事 飯田 信栄 役員 一同</p>	<p>日蓮本宗本山 要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三九〇</p> <p>首 嘉儀 日有 大学 頭 丹治 日遠 執事 佐藤 智明 執事 原 眞昭 執事 柳下 義眞 執事 高橋 寛承</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一 電話 〇七五(四六)六二一〇(代) FAX 〇七五(四六)六二一〇</p> <p>住持 井上 日慶 二王 徳治郎 事務局長 小倉 徳治郎</p>
<p>立教開宗之靈地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二五</p> <p>別当 杉山 日慎</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入</p> <p>首 山田 一光 執事 原 光司</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅説にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)九一九一</p> <p>首 久村 諦道</p>	<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>首 片山 日幹 執事 田中 慈潮</p>
<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二-1-1 電話 〇四七三(三四)三三三三</p> <p>首 長瀬 日還 執事 富田 義董 執事 関 智清 執事 新井 泰清 執事 植野 泰清 執事 廣野 泰清 執事 土田 勝宏</p>	<p>久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)七九九七</p> <p>首 金山 日龍</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 東京都杉並区堀之内三-1-4 電話 〇三三三(三三)六二四一 ※平成九年度随身生募集中</p> <p>山主 駒野 教格</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大藪町九六 電話 〇七五(七七)〇五六二</p> <p>首 土屋 学周 執事 山田 完修 執事 新井 智清 執事 加藤 通雄 執事 藤井 照雄 執事 川合 陽雄 執事 二之部 知孝</p>

門連時報

北海道日蓮聖人門下連合会 総会開催さる

平成八年九月十二日(木)午後四時三十分より、札幌市・サッポロホテルに於て総会が開催された。総会に先きたち役員会議を行った。

総会は白部理事長発声にて玄題三唱挨拶の後、法華宗本門流渡辺俊岳師座長となつて議事進行、平成六、七年度活動、決算報告承認の後役員改選が行われた。門連発足以来八年に亘つて理事長の職にあつた白部師が退任され、新たに日蓮宗札幌日登寺佐藤光春師が理事長に就任した。又事務局長の松井義昭師が退任、新たに田中文教師が就任した。

白部師は理事長退任と共に顧問に就任、佐藤理事長は前理事長の法勞を譲ると共に今後北海道門下連合会発展に尽力したい旨抱負を述べた。

平成八年度活動案・予算が可決され総会を終了、引続いて小樽市法華宗真門流宣誠寺、峰尾泉涌師が「刑務教誨に携わつて」と題し講演を行った。

六時より懇親会が行われ、和氣満々のうちに懇親を深め八時散会となった。

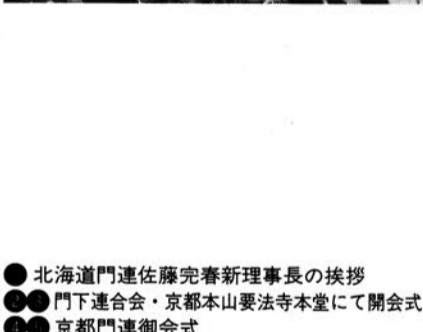
当日参集約三十名、中央門連より富川、長谷川両幹事が出席した。

京都理事會・懇談会 開催さる

平成八年十二月五日(木)本山要法寺(嘉儀日有貫主)に於て恒例の門連京都理事會・京門連との懇談会が開催された。午後一時嘉儀貫首親下御導師の法味言上開会式、記念撮影の後、新築なつた客殿にて貫首親下より、本山要法寺の縁起について御講演。

午後二時三十分より開式、全員自己紹介の後、永井祥文理理事長座長となつて議事進行、上半期事業報告が

渡辺幹事より、門連だよりに関して富川幹事が報告を行った。京都門連事業報告に関しては佐藤智明理事長より降誕会、同窓会、夏期大学、お会式など活発な活動に関し報告があった。北海道門連に於て新理事長札幌日登寺佐藤光春師より前白部理事長御退任の報告があった。大阪門下懇談会に於ては山下通雄師より合同お会式、秋の研修会、十六本山バスツアー同参(平成九年四月九日)

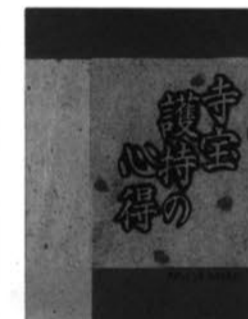


●北海道門連佐藤春新理事長の挨拶
●門下連合会・京都本山要法寺本堂にて開会式
●京都門連御会式

門下共通の本紹介

1

寺宝護持の心得



このたび日蓮宗務院より「寺宝護持の心得」が刊行された。本書は勸学院監修の下、門連だより13号、14号に執筆された立正大学中尾堯文教授が総論を、取り扱いについては寺尾英智氏(立正大学仏教学部講師)が、保存については望月真澄氏(立正大学非常勤講師・身延山宝物館学芸員)が担当執筆している。

内容は、

- 一、寺宝を護持する私たちの使命
- 二、寺宝の現状
- 三、紙に書かれた寺宝の種類
- 四、紙に書かれた寺宝の形
- 五、紙に書かれた寺宝の姿の形
- 六、寺宝の保存と管理
- 七、寺宝の整理と目録の作成
- 八、寺宝の修理と保存の担当者
- 九、寺宝を崇める行事
- 十、寺宝に触れる心得
- ※寺宝護持の心得「べからず集」となっている。豊富な写真・図版・イラストをまじえ、平易に解説されている。御門下各派に収蔵されている大聖人御真筆をはじめ、先師の貴重な文書、御聖教を次代に伝えていく重要な責務に鑑み、本書が広く読まれ利用されることを願ってやまない。本書は日蓮宗新聞社で取り扱っている。定価一五〇〇円。

なお門連加盟各派宗務院、並びに各派本山へは日蓮宗より贈呈された。

本門佛立宗講有晋位 宥清寺晋山式行わる

平成八年九月二十日(金)午前十一時より井上日慶上人の第二十二世講有晋位、宥清寺晋山式が佛立宗本山宥清寺に於て挙行された。日慶上人は本年八十七歳の高齢であるが、力強く佛立宗正常化へ向けての抱負を披瀝された。

参集の僧俗で立錫の余地なき宥清寺本堂で式典は滞りなく終了し、会場を日航ホテルに移し、祝宴が行われた。

日慶上人は佛立宗宗會議員、宗會議長、宗務総長、東京乗泉寺住職などを歴任、講有に晋位された。

京都門連御会式

京都日蓮聖人門下連合会(佐藤智明理事長・日蓮本宗)は、十一月二十七日本山要法寺に於て、第七百五十回御会式を奉行し、僧俗約二百名が参加した。あいにくの雨模様で、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚は中止となり、変更して本堂前にて撃鼓唱題した。

御会式法要は本山要法寺嘉儀日有貫首を導師に、佐藤理事長と杉若恵隆副理事長(日蓮宗)が副導師にて厳修され、参列者一同報恩の誠を捧げた。法要後、大本山妙顕寺山田一光貫首による「御入滅について」の法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を導く得た。そして、各本山貫首御染筆色紙の福引とおうどんの供養があり、御会式日程を終了した。(藤井照源)

心の渴きをいやす さだるま新書シリーズ 全12冊

NO.12/13 法華経講義 上・下 —法華三部経略講— 勝呂信勝著 各八五〇円	NO.11 日蓮聖人 女性への手紙 永田美穂著 八五〇円	NO.10 いのちを問う —生・老・病・死— 長谷川正徳監修 八五〇円	NO.9 日蓮聖人 —その生涯と教え— 日蓮宗新聞社編 八五〇円	NO.8 お寺への質問 —日蓮宗の知識121— 八五〇円	NO.7 仏教語散歩 —くらしの中の118語— 佐々木孝憲監修 八二四円	NO.5 愛のハリリテイ —鬼子母神の物語— 大嶋忠雄著 七〇〇円	NO.4 『妙法蓮華経』の生いたち —鳩摩羅什三蔵について— 野村耀昌著 七〇〇円	NO.3 今を生きる —テレホン説教— 護法伝道部選定 八〇三円	NO.2 日蓮聖人のお言葉 —一日一訓— 渡辺宝陽著 八〇〇円	NO.1 日蓮聖人のお弟子たち —六老僧略伝— 宮崎英修著 八八〇円
--	--	---	--	---------------------------------------	--	---	---	--	---	--

日蓮宗新聞社の本

日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
お申し込みTEL.03-3755-5271





各派・教団 短信

本門佛立宗

平成年度の宗務方針が、小山宗務総長より発表された。それによると平成9年度は「高祖日蓮大士・立教開宗七百五十年・報恩御奉公実働の年」と定められ、今内局の奉迎準備六年間の大綱三つの基本項目が次の様に示された。

①法要行事は、平成15年4月28日を中心とする一週間を総修大法要とし教化親子の本山参詣を奨める。
②報恩教化は七万五千人教化成満をめざす。
③記念事業は、滋賀県今津町の佛立センター用地に、第一期工事を計画施工する。

佛立研究所(所長・山内日開師)では、立教開宗七五〇年の慶讃記念御奉公の一環として「佛立版・高祖日蓮大士御書全集(仮称)」を刊行することになり、このほど計画も整い福岡日蓮副所長をチーフとする編集スタッフ22名を決め、刊行準備に走りかかった。法華経本門八品・上行要付の立場、佛立開導日蓮聖人のご視点から、日蓮大士のご真意をより鮮明に拝見させて頂くことと特色をもつ全集を目指しているという。

国柱会

機関誌「真世界」8月号「宮沢賢治生誕百年記念」特集で施本連動展開。8月、宮沢賢治生誕百年記念出版「宮沢賢治まこと愛」大橋富士子著刊行。8月7・10日、花巻で第44回国柱会青少年夏学期

校。中国、四国、九州でも開校。8月17日、宮沢賢治生誕百年記念青年セミナー、翌日、同記念の集いを盛大に開催。8月26日、国柱会会長、同霊廟賽主田中香浦大居士掃寂

29日、茶毘式。11月15日、正葬儀を国柱会葬として厳修。田中香浦先生を偲ぶ。刊行。田中隆一事務局長が霊廟賽主を継承。10月5・6日、第32回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。御門下を代表し田中隆一団長

以下、昼夜不断の唱題給仕。10月12日、池上本門寺境内で屋外宣伝。10月13日、福岡東公園日蓮聖人銅像前で街頭宣伝。11月3日、近畿連合局で桃山御陵参拝。11月16日、平成八年度定例協議員会。新会長に田中隆一賽主を推戴。(秋場善彌)

京都門下連合会

8月26日夏期大学。於本能寺会館、テーマ「現代世相と法華経の精神」、講師は、本山要法寺嘉儀日有貫首「ひと口に」、宗教評論家丸山照雄先生「私たちに託して現代とはいかなる時代か」日蓮的認識と実践、東京実践女子大学長分銅惇作先生

「宮沢賢治の文学と法華経信仰」8月26日理事会。於本能寺会館、御会式の件。11月12日理事会。於本山要法寺、御会式の件。全門連京都理事會懇談会の件。11月25日奉行委員

会。於本山要法寺、御会式の準備と最終打ち合わせ。11月27日御会式。法要一要法寺本堂に於て奉行、大導師は本山要法寺貫首嘉儀日有貫下、法話は、大本山妙顕寺貫首山田一光

現下、各本山貫首現下御染筆色紙の福引、おどんの供養あり。12月5日全門連京都理事會。理事會は要法寺、懇親會は竹茂楼12月11日会計監査、於要法寺。12月17日理事會。於本山要法寺、平成8年度会務報告・平成8年度決算報告(藤井照源)

顕本法華宗

10月12日、総本山妙満寺にて行法講習會開催。10月12日・13日、総本山妙満寺にて御会式法要厳修。10月23日、東部僧侶講習會。11月6日、西部僧侶講習會。

11月6日、西部僧侶講習會。宗教法人実務について。11月16日・17日、品川天妙国寺にて三派(顕本・陣門・真門)統合学院開催。

日蓮本宗

本山要法寺御開山日蓮上人第六百五十遠忌記念事業の一環として推進してきた客殿・大書院・庫裡等の全面新築工事は昨年七月末日を以て完了し、去る十月十三日(日)に落慶大法要が厳修された。御速夜に当たる十二日は大雨の悪

天候に見舞われたが、当日は曇一つない秋晴れに恵まれ、予定通り午前十時より高祖日蓮大聖人第七百五回御会式の奉修後、十一時より約四十名のお稚児さんを先頭に、大導師・式衆・役員による庭儀式の行道が厳かに行われ、本堂前では福島蓮昌寺檀徒による霊山太鼓と踊りが奉納された後、午後一時より京都日蓮

聖人門下連合会各山貫首現下・執事長各師の列席の中、本山要法寺貫首現下嘉儀日有上人大師の下、落慶大法要が無事成満された。大法要を終え本堂前で記念撮影の後、午後一時半より大テントの中で、京都造形美術大学の「悪」による和太鼓が演奏され、続いて貫首現下直筆の色紙の抽選等もあり、テント内での模擬店は終始賑わいを見せた。

四時過ぎより寺院、来賓・役員等、約二百名が京都ホテルに会場を移して、祝賀會が催された。日有現下ご挨拶の後、京門連の各山を代表して日蓮宗本山要法寺金山日龍現下より御祝辞を頂戴し、鏡割りの後、日蓮本宗宗會議長田中英良師の乾杯音頭で祝宴に入り、午後六時過ぎに散會

した。昭和六十一年六月、大屋根修復を決議してから十年の歳月をかけて今日に至った喜びをかみしめた一日であった。(柳下正則)

法華宗真門流

第一・二・三種講習會開催。八月二十三日より二十九日まで、総本山本隆寺に於て第一・二種講習會が、また同二十七日・九日の三日間第三種講習會が開かれ、講義・法要の実習が続けられた。

北海道支学林開講。八月二十四日より三十日まで、函館市妙見寺を会場に開講された。第一教区仏教化講話

法華宗本門流

阪神・淡路大震災以後、宗門や関係機関からの協力によって急速に復興が進んでいる。本年も昨年に引き続き、阪神・淡路大震災犠牲者第三回忌追悼法要を、1月17日、尼崎・大本山本興寺において厳修予定。平成8年7月8日付を以て、法華宗管長に和田日蓮現下(京都・大本山本能寺貫首)が就任した。これに伴い、門下連合会顧問に就任。布教の第一線の教師を補佐し、将来を期して精進しておりながら、止むをえぬ事情で学林に入學できない

等、埋もれた布教者を有能な

第一教区では、九月七日大阪福泉寺を会場として仏教化講話の集いが開催された。約二百名の参加を得て、講師に近つ飛鳥博物館長大庭済先生を迎え「享保十四年に象が大阪の本町を歩いた話」と題して講演が行われた。

東山末生流華展開催。十一月九・十日、総本山本隆寺にて東山末生流(総裁真枝日世現下)今枝幹昭事務局長華展が開催された。本年も百点余の出展を数え華やかな

流展となり、初月九日には、新師範の許状伝授式が本堂にて行われた。第二教区檀信徒研修會開催。十月二十七日、約八十名の参加を得て檀信徒研修會が開催された。十五回目を迎える今回は、布教師坂本法保上人の「こころの宝」と題する法話と、福井県立博物館学芸員笠松雅弘先生による「夢楽洞河司(むらくどうまんし)の世界」と題して、

江戸中期から明治期にかけての民衆社会の歴史を、資料とスライドを用いて講演された。(堀内浩善)

法華宗陣門流

五月二十四日より二十六日まで三日間にわたり、新潟県三条市総本山本成寺に於いて、祠堂大法要が執り行われた。二十四日は戦没者追悼法要、諸堂祭。二十五日は御歴代法要。二十六日は永代祠堂加入靈位・納骨靈位追善法要、米寿表彰という日程で執り行われた。

七月三十日宗法審議委員會が行われた。議題は「宗法一部改正に関する問題点」などであった。

九月二日・三日山形県赤湯に於いて、中央行学講習會が行われた。当日は参加教師百二十名を数え、宗学研究所所長鈴木正厳先生による「陣門教學」、西江孝之先生による「釈尊の風光」などの講義が行われた。

十一月十四日宗学研究會所員會。十五日学林教授會が行われた。

十一月十六日・十七日東京都品川区の天妙国寺に於いて、法華宗陣門流当番のもと、三宗統合協議會・統合学院(後期)が開催された。講義は、一日目法華宗(陣門流)法華宗学林教授西山英仁先生による「宗祖の靈山思想は善巧方便の対機說法か」、二日目は法華宗(陣門流)法華宗学林長松吉範先生による「法華

經について」であった。

十一月二十一日宗務所長會、二十七日布教研究所員會、十二月二日・三日新任職・学生・沙弥合同研修會四日昇級・検定試験が行われた。(今井満良)

平成年の立教開宗七五〇年を迎えるにあたり、「ひろめよう伝えようお題目」を標語に、ポスターを作成、各末寺に配布。檀信徒向け教化用。

本門法華宗。本門法華宗学院は、教学講習會においての立正大学北川前肇教授の講義録を三冊にまとめた。開目抄に開く1。他。これで同教授の講義録は計六冊の発刊となる。

本門法華宗学院は大本山妙満寺において昨年11月26、27日、第80回教学講習會を開催。講師は増田日龍現下他。

大本山妙満寺では、立正大学一切経調査班により、平成4年8月より調査中の一切経は、經典全ての目録を完成した。昨年7月からは文化庁において最終調査が開始され、5月には重要文化財として認定されるか否かの結果が発表される。

大本山妙満寺にては、昨年10月12、13日の両日お会式法要が厳修された。一昨年復活された万燈會は、多くの作品が奉納・展示され御会式に花を添えた。境内参道には、恒例の屋台やフリーマーケットが立ち並び多くの参詣者で賑わった。

平成8年11月12日大本山妙満寺で、御開山日蓮聖人御遺徳法要、三師會並歴代人年忌法要が厳修された。(木村光正)

法華宗本門流

阪神・淡路大震災以後、宗門や関係機関からの協力によって急速に復興が進んでいる。本年も昨年に引き続き、阪神・淡路大震災犠牲者第三回忌追悼法要を、1月17日、尼崎・大本山本興寺において厳修予定。平成8年7月8日付を以て、法華宗管長に和田日蓮現下(京都・大本山本能寺貫首)が就任した。これに伴い、門下連合会顧問に就任。

布教の第一線の教師を補佐し、将来を期して精進しておりながら、止むをえぬ事情で学林に入學できない等、埋もれた布教者を有能な

教師に養成する特別講習會(戦後第12回)が大本山を順次会場として開催される。第一期(平成8年11月18・23日、沼津・光長寺にて開催済)、第二期(平成9年2月24日・3月1日、京都・本能寺にて開催予定)、第三期(平成9年4月14・19日、茂原・鷺山寺にて開催予定)を修了すると、教師資格を取得することができる。今回の受講者は二十五名。

日蓮宗

全国日蓮宗青年會(風間隆修委員長)北海道結集が五月二十日・二十二日迄札幌市日登寺及びサツポルネッサンスホテルを会場に開催、全国より二百名余が参加、市中行脚を始め、21世紀に向け何をなすべきかディスカッション。

平成八年度お題目総弘通運動、中央講習會が六月四日、立正大学講堂に於て開催された。全国より五百五十名が参加。

七月五日、北海道南西沖地震被災慰霊法要が奥尻町日潮寺で営まれ、永井宗務総長ほか僧侶檀信徒犠牲者の遺族ら百人余が参列した。焼失した日潮寺は三年ぶりに再建された。

第十回日米青少年交流ハワイ研修が七月二十二日から二十八日までハワイ・ワイカイウ島、オアフ島で開催され六十名の参加者が現地開導師指導の下に各種研修を行った。

日蓮宗北米教団主催「立教開宗七百五十年慶讃願大法要」が八月二十五日、ロサンゼルスの日蓮宗本山別院で営まれ、檀信徒約二百人が参列、岩間副総長が導師を勤めた。

日蓮聖人が三國四師の御一人として尊崇された天台大師の一四〇〇年大遠忌日蓮宗門法要が、十月十五日日蓮曆根本中堂に於て厳修、大曼荼羅御本尊が掲げられ中央に天台大師像、右に日蓮聖人像、左に伝教大師像を安置、田中日淳管長導師宗務内局宗門要路参席、比叡山梅山座主臨席の下に厳修された。式後横川定光院にて秋季法要が営まれた。参列檀信徒八百人余。(富川孝恭)

る教師に養成する特別講習會(戦後第12回)が大本山を順次会場として開催される。第一期(平成8年11月18・23日、沼津・光長寺にて開催済)、第二期(平成9年2月24日・3月1日、京都・本能寺にて開催予定)、第三期(平成9年4月14・19日、茂原・鷺山寺にて開催予定)を修了すると、教師資格を取得することができる。今回の受講者は二十五名。

日蓮聖人門下連合会。本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

- 事業。本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
 1. 祖廟護持の組織強化
 2. 教育事業の提携
 3. 布教の連合強化
 4. 懇談会・研究会・講演会等の開催
 5. 各種出版物の刊行
 6. 海外布教の提携及び交流
 7. 対外的な各種の運動
 8. その他
- 加盟団体。日蓮宗 法華宗本門流、本門法華宗、法華宗陣門流、本門佛立宗、日蓮本宗、法華宗真門流、日本山妙法寺、京都市下連合会。

●目的。本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●目的。本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●目的。本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。